

令和 6 年

第15回彦根市子ども議会会議録

11 月
(11月16日)

彦 根 市 議 会

彦根市子ども議会会議録総目次

11月16日（土）

議事日程	1
本日の会議に付した事件	1
会議に出席した議員	1
会議に欠席した議員	1
議場に出席した事務局職員	1
会議に出席した説明員	2
開会	3
開議	3
会議録署名議員の指名（5番 吉田玖音さん（平田小学校）、11番 藤岡和恩さん（城陽小学校）、14番 喜多玲音菜さん（城陽小学校）、20番 大崎花奈さん（稲枝西小学校）	3
会期の決定	3
彦根市政について（一般質問）	3
1番 浅野まりさん（金城小学校） 質問	4
たちばな号の利用促進について	4
小島教育部長 答弁	4
2番 岩村怜治さん（城南小学校） 質問	5
ふくみつ公園に高学年用の遊具を作り、芝生を整備してほしい	5
古川都市政策部長 答弁	5
3番 小原恋さん（稲枝東小学校） 質問	6
彦根市バスを季節ごとに小中学生対象に1日百円で乗り放題にしたい	6
古川都市政策部長 答弁	6
4番 日下部玄篤さん（佐和山小学校） 質問	7
すべての公園でドッジボールやサッカーボールが使えるように	7
古川都市政策部長 答弁	7
5番 吉田玖音さん（平田小学校） 質問	8
彦根市で休日診察に対応している病院の受診時間を長くしてほしい	8
大久保福祉保健部長 答弁	8
6番 大菅悠介さん（稲枝東小学校） 質問	10
運動場をきれいに整備してほしい	10
小島教育部長 答弁	10

7番 山東幸太郎さん（佐和山小学校）	質問	11
通学路の安全を守るために		11
關谷建設部長	答弁	11
8番 後藤響太郎さん（城南小学校）	質問	12
彦根に新幹線の駅を造ってほしい		12
安藤副市長	答弁	13
9番 中元悠翔さん（河瀬小学校）	質問	14
地球温暖化を止めるためにできること		14
北村市民環境部長	答弁	14
10番 永江広奈さん（亀山小学校）	質問	15
街路樹が整備された彦根市にするために		15
和田市長	答弁	15
11番 藤岡和恩さん（城陽小学校）	質問	17
居場所を見つけられるアプリの提供		17
疋田企画振興部長	答弁	17
12番 藤塚琴葉さん（稲枝北小学校）	質問	18
快適な温水プールの設置について		18
小島教育部長	答弁	19
13番 森陽彩さん（高宮小学校）	質問	19
歩道橋設置について		19
關谷建設部長	答弁	20
14番 喜多玲音菜さん（城陽小学校）	質問	21
スクールバスの導入について		21
小島教育部長	答弁	21
15番 片瀬実優さん（城東小学校）	質問	22
学校のプールに屋根をつけることについて		22
小島教育部長	答弁	22
16番 コルトン恵里さん（河瀬小学校）	質問	23
少子高齢化について		23
大久保福祉保健部長	答弁	23
17番 大菅麻央さん（若葉小学校）	質問	25
体育館にクーラーを設置してほしい		25
小島教育部長	答弁	25
18番 疋田羽瑠さん（旭森小学校）	質問	26
大きな地震への備えの充実を		26
近藤市長直轄組織危機管理監	答弁	26

19番 飯田大和さん（鳥居本小学校）	質問	27
彦根市は人口減少に対してどのような対策をとっているか		27
和田市長	答弁	28
20番 大崎花奈さん（稲枝西小学校）	質問	29
みんなが参加できるひなん訓練実施について		29
安藤副市長	答弁	30
21番 山口愛加さん（城北小学校）	質問	31
彦根駅の利用客を増やしてほしい		31
古川都市政策部長	答弁	31
22番 野瀬悠成さん（城西小学校）	質問	32
学習者用端末をより高性能に		32
西嶋教育長	答弁	32
23番 桐畑琉楓さん（城北小学校）	質問	33
休日部活動の地域移行について		33
西嶋教育長	答弁	33
24番 田辺蓮美さん（若葉小学校）	質問	34
図書館の利用を増やすことについて		34
小島教育部長	答弁	34
閉会		35

令和 6 年 11 月 16 日

第15回彦根市子ども議会会議録

【 第 1 日 】

第15回彦根市子ども議会会議録

令和6年11月16日（土曜日）

議 事 日 程

- 第1 会議録署名議員の指名
 - 第2 会期の決定
 - 第3 彦根市政について
-

本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
 - 日程第2 会期の決定
 - 日程第3 彦根市政について
-

会議に出席した議員（24名）

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1番 浅野 まり さん（金城小学校） | 13番 森 陽 彩 さん（高宮小学校） |
| 2番 岩村 怜 治 さん（城南小学校） | 14番 喜 多 玲音菜 さん（城陽小学校） |
| 3番 小 原 恋 さん（稲枝東小学校） | 15番 片 瀬 実 優 さん（城東小学校） |
| 4番 日下部 玄 篤 さん（佐和山小学校） | 16番 コルトン恵 里 さん（河瀬小学校） |
| 5番 吉 田 玖 音 さん（平田小学校） | 17番 大 菅 麻 央 さん（若葉小学校） |
| 6番 大 菅 悠 介 さん（稲枝東小学校） | 18番 疋 田 羽 瑠 さん（旭森小学校） |
| 7番 山 東 幸太郎 さん（佐和山小学校） | 19番 飯 田 大 和 さん（鳥居本小学校） |
| 8番 後 藤 響太郎 さん（城南小学校） | 20番 大 崎 花 奈 さん（稲枝西小学校） |
| 9番 中 元 悠 翔 さん（河瀬小学校） | 21番 山 口 愛 加 さん（城北小学校） |
| 10番 永 江 広 奈 さん（亀山小学校） | 22番 野 瀬 悠 成 さん（城西小学校） |
| 11番 藤 岡 和 恩 さん（城陽小学校） | 23番 桐 畑 琉 楓 さん（城北小学校） |
| 12番 藤 塚 琴 葉 さん（稲枝北小学校） | 24番 田 辺 蓮 美 さん（若葉小学校） |
-

会議に欠席した議員（なし）

議場に出席した事務局職員

- 事 務 局 長 杉 本 弘 之
 - 議会課長補佐 高 木 絵 美
 - 書 記 内 田 亮
-

会議に出席した説明員

市 長	和田 裕 行 さん	副 市 長	安 藤 博 さん
市長直轄組織危機管理監	近 藤 弘 明 さん	企画振興部長	疋 田 元 伯 さん
市民環境部長	北 村 典 彦 さん	福祉保健部長	大久保 裕 次 さん
建設部長	關 谷 真 治 さん	都市政策部長	古 川 雅 之 さん
教 育 長	西 嶋 良 年 さん	教 育 部 長	小 島 久 喜 さん
企画振興部次長	種 村 慎 洋 さん		

○議会事務局長（杉本弘之さん） 皆さん、おはようございます。

本日は、第15回子ども議会にお越しいただきましてありがとうございます。

ご来場の皆様方に何点かお願いをさせていただきます。子ども議会取材のため、議場内に報道機関が入って撮影をされますので、ご了承をいただきますようお願いを申し上げます。保護者の皆様、傍聴者の皆様には、本会議中の撮影は傍聴席のみからとさせていただきますけれども、本会議終了後に撮影時間を設けておりますので、議場内での撮影は本会議終了後にお願いをいたします。

なお、議場内では飲食禁止とさせていただきます。また、携帯電話をお持ちの方は、電源を切っていただくか、マナーモードの設定をお願いいたします。

午前 9 時24分開会

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 最初に議長をします河瀬小学校、コルトン恵里です。よろしくお願いします。

ただいまから第15回彦根市子ども議会を開会します。

ただちに会議を始めます。

日程第1 会議録署名議員の指名

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 日程第1、会議録署名議員を指名します。

会議録署名議員に5番吉田玖音さん、11番藤岡和恩さん、14番喜多玲音菜さん、20番大崎花奈さんを指名します。

日程第2 会期の決定

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 日程第2、会期の決定を議題とします。

お聞きします。今回の彦根市子ども議会の会期は、本日1日としたいと思います。これにご異議はありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 異議なしと判断します。

今回の彦根市子ども議会の会期は、本日1日と決定しました。

日程第3 彦根市政について（一般質問）

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 日程第3、彦根市政についてを議題とし、質問を行います。

24名の皆さんから質問が提出されています。まず、第1グループの順番は、1番浅野まりさん、2番岩村怜治さん、3番小原恋さん、4番日下部玄篤さん、5番吉田玖音さん、6番大菅悠介さん、7番山東幸太郎さん、8番後藤響太朗さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

1 番浅野まりさん。浅野さん。

〔1 番（浅野まりさん）登壇〕

○1 番（浅野まりさん） 「たちばな号の利用促進について」

私は、たちばな号の停車場所を増やしたり、小・中学校にも行ったりして、全世代にもっと本と親しんでもらうことを提案します。

現在、外に遊びに行く子どもが大勢いたり、雨の日でもトランプなどのカードゲームを利用する子どもが増えていて、学校の図書室に行ったり、教室で本を読んだりする子どもが減ってきてしまっています。

また、私の地域では1か所だけたちばな号がとまる場所がありますが、子どもたちが学校に行っている時間だったり、平日だったりして利用がしにくいという現状があります。

これらの課題を解決するために、たちばな号が小・中学校に行ったり、停車場所を増やしたりすることで本を読む子どもが増え、全世代が本に親しむことができると思います。

これらの理由から、私は、たちばな号の停車場所の増加や時間帯を再検討することを提案します。

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 教育部長。

○教育部長（小島久喜さん） 皆さん、おはようございます。これから、子ども議員の皆さんの市政への質問に順次お答えしていきますので、よろしくお願いします。

それでは、浅野まりさんからの「たちばな号の利用促進について」のご質問にお答えします。

全世代にもっと本と親しんでもらうことは、図書館にとってとても大切なことです。移動図書館たちばな号は、約3,000冊の本を載せて、図書館から遠い地域を中心に市内51か所を月に1度巡回し、図書館と同じように貸出し、返却、予約本の受け取りなどのサービスを行い、子どもからお年寄りの方まで多くの人にご利用いただいています。

現在、たちばな号の運行は、図書館からの距離と地域バランスを考えて停車場所を設定するとともに、準備や職員体制も考慮して曜日設定をしています。さらに、市内小・中学校の24か所を増やすことは大変難しい状況にありますので、停車場所を増やすことや時間帯を変えることは今のところ考えておりません。

しかしながら、令和10年度には南彦根駅の西側に（仮称）図書館中部館の開館を予定しており、全世代の方々にもっと本と親しんでもらえると考えております。

また、小・中学校には、それぞれ学校図書館があり、児童・生徒の皆さんに読んでほしい本が数多くそろえられていますので、皆さんには、学校図書館も大いに利用していただき、本と親しんでいただければと考えますので、よろしくお願いします。

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 浅野さん。

〔1 番（浅野まりさん）登壇〕

○1 番（浅野まりさん） ありがとうございました。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（コルトン恵里さん）

2番岩村怜治さん。岩村さん。

〔2番（岩村怜治さん）登壇〕

○2番（岩村怜治さん） 「ふくみつ公園に高学年用の遊具を作り、芝生を整備してほしい」

僕は、ふくみつ公園に高学年用の遊具を作り、芝生を整備することを提案します。

理由は三つあります。

一つ目は、ふくみつ公園には低学年用の遊具しかないからです。ふくみつ公園は広いので、ドッジボールや鬼ごっこ、野球をするのにはとてもいい公園です。しかし、高学年用の遊具がなく、高学年が低学年用の遊具で遊ぶしかなく、それによって低学年が遊具を使えないことがあります。

二つ目は、高学年も楽しめる遊具を作ってほしいからです。低学年の遊具ではあまりスリルがなく楽しくないので、危険な遊び方をしてしまって、けがをしてしまった人がいました。だから、低学年から高学年みんなが楽しめて安全性の高い遊具を作ってほしいです。

三つ目は、遊具の周りの芝生がなくなってきたので、また整備し直してほしいからです。芝生があれば、遊具から落ちてでもあまり痛くないので安全です。さらに、雨が降っても、芝生があるので水はけがよく、雨が降った後も遊べます。

これらのことから、僕の好きなふくみつ公園が低学年から高学年みんなにとって魅力のある公園になってほしいので、ふくみつ公園に高学年用の遊具を作り、芝生を整備することを提案します。

○第1グループ議長（コルトン恵里さん）

都市政策部長。

○都市政策部長（古川雅之さん） 岩村怜治さんからの「ふくみつ公園に高学年用の遊具を作り、芝生を整備してほしい」についてお答えします。

ふくみつ公園は、彦根市の中では中規模の公園であり、ボール遊びなどができる大きな広場や複合遊具などがあります。現在、ふくみつ公園にある遊具は、幼児が遊べる部分と小学校の低学年から高学年までが遊べる部分を併せた複合遊具が1基、小学校の低学年から高学年までが遊べるターザンロープが1基、幼児用の3連ブランコと、障害がある子もみんなと一緒に遊べるインクルーシブ遊具と言われる、お皿の形をしたブランコが1基あります。特に複合遊具やターザンロープについては、令和元年度に、どんな遊具を整備してほしいか、城南保育園や城南小学校の皆さんにアンケート調査を実施し、子どもたちの意見を取り入れながら整備を進めてきました。

公園の利用者は小さな子どもからお年寄りまで幅広い年代がおられますので、市としては、特定の年代に限らず、皆さんが安心して楽しめる公園づくりに努めているところでございます。岩村さんからは、スリルある高学年用遊具の設置をご提案いただきましたが、幅広い年代が安心して楽しめ、スリルと安全性のバランスが整ったものを設置することが重要であると考えておりますので、高学年だけに喜ばれる遊具の設置は少し難しいと考えています。

また、遊具回りの芝生の整備のご提案につきましては、皆さんがよく遊ぶ場所ほど芝生が傷んですぐになくなってしまいうために、その代わりとして、複合遊具については、一部の箇所にクッション性の高いゴムマットを令和4年度に設置しています。

今回のご提案を受け、安心して遊んでいただけるよう、芝生ではありませんが、ゴムマットの範囲を広げるなど、安全確保についても進めていきたいと考えています。

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 岩村さん。

〔2番（岩村怜治さん）登壇〕

○2番（岩村怜治さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 3番小原恋さん。小原さん。

〔3番（小原 恋さん）登壇〕

○3番（小原 恋さん） 「彦根市バスを季節ごとに小中学生対象に1日百円で乗り放題にしては」

私は、季節ごとに小・中学生を対象に100円で彦根市バスが乗り放題になる日を設定してほしいです。

私は、小説や漫画などの本が大好きで、本をよく読んでいます。社会の授業で歴史を学んでから、歴史はストーリーがあって本みたいだから好きになりました。自然が美しく、ご飯もおいしい彦根市が私は大好きです。彦根市の歴史を知ることでもっと好きになれると思っています。

私たちの学年では、大きくなったら都会に住みたいという人がたくさんいます。私は、歴史は好きだけど、彦根市の歴史はほとんど分からないし、私だけでなく多くの小・中学生が彦根市のよさを知ることができれば、大人になっても住み続けられると思います。そこで、彦根市バスを季節ごとに100円で乗れる日を設定することで、もっと彦根市の歴史のよさをみんなに分かってもらえるのではないかと考えます。100円バスに乗って、例えば稲枝の稲部遺跡、高宮の中仙道の宿場町跡や世界遺産登録を目指す彦根城などの歴史めぐりに行って歴史のよさを感じることができたら、彦根市をもっともっと好きになってもらえると思います。

これらのことから、小・中学生が気軽に100円でバスを利用できる日を季節ごとに設定することを提案します。

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 都市政策部長。

○都市政策部長（古川雅之さん） 小原恋さんからの「彦根市バスを季節ごとに小中学生対象に1日百円で乗り放題にしては」という提案についてお答えします。

小原さんが提案されているとおり、彦根の歴史を知るとは、彦根を好きになると同時に自分の誇りにもなり、住み続けたいと思う気持ちにもつながります。また、その彦根のよさを市外の人に伝えることにより、彦根のファンが増え、住みたい、住み続けたい人も増えることにつながりますので、すばらしい考えだと思います。

さて、今回提案いただきました「彦根市バスを季節ごとに小中学生対象に1日百円で乗り放題にしては」につきましては、令和4年と令和5年には、3日間、運賃が全て無料になる「路線バスだけでも無料DAY」を実施し、今年については、10月19日に開催されました近江鉄道のガチャフェスに合わせまして、子ども運賃を無料とする企画を行いました。このようなイベントを行うには、事前のチラシの作成や情報の発信、料金を変更するための機械の設定など、準備にお金や時間がかかりますので、頻繁に行うことは難しいのも事実です。

今後、小原さんが歴史の学習を通じて路線バスにも興味を持ってくださったように、多くの小・中学生の皆さんに路線バスに乗って彦根のまちを巡ってみようと思ってもらえるよう、小原さんの提案も参考にしながら、いろいろな取組について検討していきたいと思っています。

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 小原さん。

〔3番（小原 恋さん）登壇〕

○3番（小原 恋さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 4番日下部玄篤さん。日下部さん。

〔4番（日下部玄篤さん）登壇〕

○4番（日下部玄篤さん） 「すべての公園でドッジボールやサッカーボールが使えるように」

僕は、全ての公園でドッジボールやサッカーのボールが使えるようにしてほしいと思います。僕たちが公園で遊ぶとき、ボールを使ってはいけないと書いてあります。僕たちはボールを使って遊びたいと思っていますが、なぜ公園でボールを使ってはいけないのでしょうか。

また、僕は全ての公園に網を使ってボールが外に出ることを防ぐ返しのようなものをつくることを提案します。低コストで近所の人には迷惑をかけずに遊ぶことができます。また、ボールなどをなくしたときは、ボールの種類と使う人の名前を書くところをつくるなどして、もしもなくしたときにその人に返すことを提案したいと考えておりますので、全ての公園でボールが使えるようにしてほしいと思います。

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 都市政策部長。

○都市政策部長（古川雅之さん） 日下部玄篤さんからの「すべての公園でドッジボールやサッカーボールが使えるように」についてお答えをします。

現在、彦根市には、金亀公園や荒神山公園のような大きな公園から団地の中にある小さな公園まで、目的や広さによって様々な種類の公園があり、その数は合計で約380か所になります。

小さな公園でのボール遊びは、ボールがフェンスを飛び越え、近所の人に迷惑をかける場合があります。注意しても改善されない場合や、その迷惑があまりにもひどい場合は、公園

のある地域の方たちと相談し、結果としてボール遊びが禁止になってしまうことがあります。

ご提案のようにネットを整備すると、ある程度ボールが外に出ることを防ぐことができ、近所の方たちに迷惑をかけることが少なくなるかもしれません。本市も、新たに整備する公園につきましては、フェンスの高さを2メートルにするなど、できるだけ高くすることで公園内で様々な遊びができるように取り組んでいます。それでも近所の人からボールが公園の外に出て困るという相談を受けることがありますので、周りの人々に迷惑をかけないよう、ルールを守ることや公園の規模に応じて遊び方をしてもらうことが大切だと考えています。

また、十分広さのある公園や学校の校庭でボール遊びをすることで思い切りボール遊びができますし、ご提案のボールをなくすこともなくなると思いますので、ドッジボールやサッカーボールで思い切り遊びたいときは、大きな公園や校庭で楽しんでもいただきたいと思います。

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 日下部さん。

〔4番（日下部玄篤さん）登壇〕

○4番（日下部玄篤さん） ありがとうございます。

これで質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 5番吉田玖音さん。吉田さん。

〔5番（吉田玖音さん）登壇〕

○5番（吉田玖音さん） 「彦根市で休日診察に対応している病院の受診時間を長くしてほしい」

僕は、彦根市で休日診察に対応している病院の診察時間を長くしてほしいと考えます。その理由は二つあります。

まず、一つ目は、彦根市には休日に診察してくれる病院の数が少ないことです。前に自分が病気になったとき、彦根市の病院が開いていなくて、母が大変苦勞しました。結局、彦根市で診てもらえる病院が見つからず、長浜市の病院で診てもらうことになりました。そのとき僕はとてもしんどくて、少しでも早く診てもらいたかったのですが、受診までに時間がかかり、つらかったのを覚えています。僕と同じような経験をした人もいないのでしょうか。

二つ目は、休日診察が可能な病院の受診時間が短いことです。仕事をしている人たちにとっては、行ける時間帯が少ないので、受診できない場合もあります。

これらの理由から、彦根市で休日診察をしている病院が少しでも受診時間を延長してくれることを希望します。そうすれば、子どもから大人まで彦根市のみんなが安心して毎日を過ごせるし、病気やけがなく健康に過ごせると考えます。

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（大久保裕次さん） 吉田玖音さんからの「彦根市で休日診察に対応し

ている病院の受診時間を長くしてほしい」についてお答えします。

受診時間を長くすることにつきましては、非常に難しいと考えています。

まず、この診療日や診察時間についてです。これは病院の開設者が決めているものでありまして、その内容を都道府県知事に届け出る届出制になっております。このため、都道府県や市町村がこの診療時間の長さを調整できるものではないということが一つございます。

次に、医師の労働時間についてです。今年度から法律で医師の長時間労働の規制が始まりましたので、今以上に診療時間を延ばすことは難しいと思います。

次に、市内の医療機関の現状についてです。日曜日に診療している医療機関は四つございます。そのうち病院は一つ、診療所は三つあります。診療時間ですが、この四つのうちの三つが午前中までであります。残りの一つが夕方までとなっています。先ほど言いました三つの診療所のうちの一つは、彦根休日急病診療所というものがございます。これは、湖東地域で休日に診療をしている医療機関が少ないことから、彦根市、愛知郡、犬上郡の行政が彦根医師会の協力によりまして運営をしているものでして、日曜日以外にも祝日や年末年始も診療をしております。なお、詳しい検査や入院が必要となった場合は、救急病院であります彦根市立病院や長浜赤十字病院が対応するように病院の間で役割分担をされています。

次に、小児科、これは15歳までの方を主に診られる診療科ですが、小児科を中心とした救急医療についてです。近年、地方の医師の不足や地域的な偏りが生じておりまして、滋賀県内でも湖東や湖北地域では特に小児科の医師が少ない状況になっています。そのため、平日の夜間や休日は、救急医療を担当する医師が不足しているのが課題になっていまして、救急医療の体制を何とか確保するために、滋賀県では県内を四つの区域に分けて、小児科の医師を四つの病院に集める、病院といいますのは救急救命センターがある病院になります、こちらに集めることを計画されているところでございます。

最後に、彦根市から市民の皆さんにお願いしたいことであります。この9月に市内の全世帯にチラシを配布させていただきました。これは「急病時の医療のかかり方について」というものでございます。これにはかかりつけのお医者さんを持つことや、あるいは急な病気の場合の対応を掲載しておりますので、ぜひまたお読みいただきまして、ご協力をお願いしたいと思います。

なお、本市といたしましては、市民の皆さんが安心して生活ができますように、今後も滋賀県や医療機関と協力をしながら医療の提供体制の維持に努めてまいりたいと考えております。

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 吉田さん。

〔5番（吉田玖音さん）登壇〕

○5番（吉田玖音さん） ありがとうございました。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 6番大菅悠介さん。大菅さん。

〔6番（大菅悠介さん）登壇〕

○6番（大菅悠介さん） 「運動場をきれいに整備してほしい」

僕は、学校の運動場を整備することを提案します。

僕が通っている小学校では運動場に凸凹があり、外で100メートル走を走っているときにこけそうになることもありました。僕も実際にこけてしまい、怖い思いをしたことがありました。運動場を整備することでみんなが安心して遊ぶことができるようになると、外で遊ぶ人も増え、みんなの体力向上にもつながると思います。また、100メートル走なども全力で走ることができ、タイムが縮まると思います。

そこで、運動場を整備する一つとして、運動場の芝生化を提案します。以前、ほかの学校で運動場が芝生になっているところがあると聞いたことがあります。芝生であれば、転んでもけがをすることが少なくなると思います。また、運動をしたときの体への衝撃や負担を抑えることができるそうです。

芝生のメリットは、ほかにも、雨が降った後にぬかるみにくくなることや気温の上昇を抑えることなどだそうです。最近の夏は昔に比べるととても暑くなっていると聞きます。確かに、今年の夏も毎日とても暑かったです。熱中症指数が危険レベルになり、休み時間に外で遊べない、体育ができない日もよくありました。しかし、芝生で気温上昇を抑えることができると、熱中症予防で外遊びや外での体育の制限も少なくなると思います。

運動場を芝生にすると様々なメリットがあります。これらのことから、僕は運動場を芝生にすることを提案します。

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 教育部長。

○教育部長（小島久喜さん） 大菅悠介さんからの「運動場をきれいに整備してほしい」とのご質問にお答えします。

ご提案のとおり、運動場を芝生化した場合、けがの予防につながる可能性があり、雨が降った後、土のぬかるみなども抑えられるかもしれません。一方、現在の運動場を芝生化するために行う工事には多くの費用がかかります。また、芝生を設置しますと、その管理が必要となり、例えば定期的に水やりをしなければならないほか、芝生が伸び過ぎるとつまずいてけがにつながるため、芝刈機も必要となり、その維持に多くの費用がかかることになります。ほかに、芝生の上では車椅子による移動が難しいとのご指摘もあり、今後不便を感じる人がいるかもしれません。

このように、一つの問題を解決しようとする、その解決方法に対しては、よい点だけではなく、困る点が出てくる場合もあります。そのため、ご提案いただいた芝生の設置を行うということは難しいと考えています。

しかしながら、今回のように、よりよい学校生活を送るためにはどうすればいいかを考え提案する大菅さんの姿勢は、今後もぜひ大切にしていきたいと思います。

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 大菅さん。

〔6番（大菅悠介さん）登壇〕

○6番（大菅悠介さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 7番山東幸太郎さん。山東さん。

〔7番（山東幸太郎さん）登壇〕

○7番（山東幸太郎さん） 「通学路の安全を守るために」

僕は、安心して通学できる安全な通学路を整備することを提案します。

僕は登校班長をしていて、毎日、1年生5人、2年生3人を含む13人で登校していますが、利用している通学路は、道が狭いのににもかかわらず、多くの車が抜け道として速い速度で利用していて、怖い思いをしています。そのため、抜け道として多くの車が利用している通学路にガードレールを設置してほしいと思います。

また、安心・安全な通学路にするためには、防犯のための設備も必要です。市内の通学路の中には人気がなく薄暗い道もあるため、その道の周りに公園や交番などを整備することで不審者が近づかない通学路にできると思います。

こうした整備をすることで子どもたちが安心して通学できる彦根市にすることを提案します。

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 建設部長。

○建設部長（關谷真治さん） 山東幸太郎さんからの「通学路の安全を守るために」についてお答えします。

小学校の通学路の安全対策につきましては、毎年、佐和山小学校をはじめ、市内全ての小学校から危険箇所を報告いただいて、学校の先生、教育委員会、警察、道路を管理する県や市の職員が合同で点検し、状況を把握した上で、どのような対策をすれば安全な通学路になるかを検討し、通学路の変更をはじめ、ガードレールやグリーンベルトなどの対策をしております。

山東さんが怖い思いをされている場所は、彦根総合高等学校の東側の通学路であるとはいいましたが、現状、道路の幅は2メートル程度と狭いものの、車両の通り抜け道に利用されています。抜け道に利用されている通学路の安全対策として、山東さんからご提案をいただいたガードレールを設置する方法が考えられますが、設置することにより道幅がさらに狭くなることや、沿道敷地の出入りに支障が出るなどの問題がありますので、この対策は難しいと考えております。今回ご指摘いただいた対策については、毎年の通学路の点検の中で、今後改めて関係機関の方と共に検討したいと考えています。

また、防犯対策として、ご提案のような公園や交番などを整備することは難しい状況ですが、現在、彦根市では、子ども見守り活動を進めており、彦根市全体で892名、佐和山小学校区では18名の地域や保護者の方々にスクールガードとして交差点の見守りや付添いなどをしていただいております。今後も引き続き、「広報ひこね」や市のホームページなどによりご協力と呼びかけてまいりたいと考えております。

最後に、山東さんのように、通学路に不安がある場所につきましては、気づいたことなどを学校に伝えていただきましたら、改めて対応について検討し、皆さんが安心して通学できるよう取り組んでまいりたいと考えております。

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 山東さん。

〔7番（山東幸太郎さん）登壇〕

○7番（山東幸太郎さん） 再質問します。

そのような狭い道幅のところでもできる対策として、何かいい方法はあるのでしょうか。

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 建設部長。

○建設部長（關谷真治さん） 狭い道での通り抜け対策としましては、実際に車を使って出入りされているというところがあるので、幅を狭めるということはちょっと難しいのですが、路面にスピードを落とすような標示をしたり、主に通学路のところにつきましては、グリーンベルトを設けて、ここが通学路になっていますよということを車両に対して意識を持たせて、スピードを落とさせるということがございます。

できる対策を今後も進めていきますので、皆さんができるだけ安全に通学できるようにしてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 山東さん。

〔7番（山東幸太郎さん）登壇〕

○7番（山東幸太郎さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 8番後藤響太郎さん。後藤さん。

〔8番（後藤響太郎さん）登壇〕

○8番（後藤響太郎さん） 「彦根に新幹線の駅を造ってほしい」

僕は、彦根市に新幹線の駅をつくってほしいです。理由は三つあります。

一つ目は、彦根の人が京都や名古屋に行くときにスムーズに行けるからです。僕も、週4回、塾に行くときに普通電車や新快速電車を利用しますが、1時間に来る電車の数が少ないし、時間もかかります。電車のトラブルや事故があったときは電車が止まってしまい、長時間待たなければいけないときがありました。新幹線の駅があれば、在来線が止まっても新幹線で帰れるので安心です。彦根から京都や大阪まで今よりずっと短時間で行けるので、新幹線で通勤・通学できるようにもなります。

二つ目は、京都や大阪からたくさんの観光客に来てもらえることです。彦根には国宝彦根城やキャッスルロード、琵琶湖など見どころがたくさんあります。ひこにゃんのお菓子や彦根梨、鮒ずしなどおいしいものもあります。日本人だけではなく、外国人の観光客も増えるので、より多くの人に彦根のまちのよさを知ってもらえます。

三つ目は、新幹線ができれば人口が増えて彦根市がにぎやかになることです。若い世代の人たちも増えるので、働く人も増えて、彦根の財政も潤うからです。

これらのことから、よりよい彦根の未来のために新幹線の駅をつくることを提案します。

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 副市長。

○副市長（安藤 博さん） 後藤響太朗さんからの「彦根に新幹線の駅を造ってほしい」についてお答えいたします。

後藤さんの提案のとおり、彦根市に新幹線の駅ができますと、彦根市民の長距離の移動が便利になります。また、これまで以上に彦根市への移動が便利になることで彦根市を身近に感じ、日本人だけではなく外国人も含めて彦根で観光したいと考える人も増えると思います。そして、新幹線駅のある便利で活気あるまちに住みたいと考える人も増えるなど、彦根市に活気をもたらすことになると思います。

滋賀県では、20年ほど前に栗東市に新幹線の駅をつくろうとしたものの、地元の県や市が膨大な費用を負担しなければならず、実現しなかったという事例があります。また、すぐ近くには米原駅があり、彦根市に新幹線の駅ができると新幹線のスピードが落ち、目的地に着く時間が遅れるなど、彦根の駅を利用されない多くの新幹線利用者の方々が不便になってしまいます。

このように、駅をつくるには県や市も膨大な費用が必要となります。また、新幹線利用者の利便性などを考えて、最終的にはＪＲ東海が駅をつくるかどうか決められます。後藤さんの提案は魅力のあるものだと思いますが、栗東市の事例などからすると非常に難しいのではないかと考えております。しかしながら、現在、敦賀まで来ている北陸新幹線について、敦賀駅から米原駅を経由するルートについても話題となっておりますので、新しい新幹線の駅については、こうした動きとともに見守っていきたいと思います。

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） 後藤さん。

〔8番（後藤響太朗さん）登壇〕

○8番（後藤響太朗さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（コルトン恵里さん） しばらくの間、休憩します。

○議会事務局長（杉本弘之さん） お知らせします。休憩時間は10分程度といたします。

午前10時09分休憩

午前10時19分再開

○議会事務局長（杉本弘之さん） 皆さん、おはようございます。

本日は、第15回子ども議会にお越しいただきましてありがとうございます。

ご来場の皆様方に何点かお願いをさせていただきます。子ども議会取材のため、議場内に報道機関が入って撮影をされますので、ご了承いただきますようお願いをいたします。保護者の皆様、傍聴者の皆様には、本会議中の撮影は傍聴席のみからとさせていただいておりますけれども、本会議終了後に撮影時間を設けておりますので、議場内での撮影は本会議終了後をお願いをいたします。

なお、議場内では飲食禁止とさせていただきます。また、携帯電話をお持ちの方

は、電源を切っていただくか、マナーモードの設定をお願いいたします。

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 議長を交代しました。若葉小学校、田辺蓮美です。よろしくお願いします。

休憩の前に続いて会議を開きます。

第2グループの順番は、9番中元悠翔さん、10番永江広奈さん、11番藤岡和恩さん、12番藤塚琴葉さん、13番森陽彩さん、14番喜多玲音菜さん、15番片瀬実優さん、16番コルトン恵里さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

9番中元悠翔さん。中元さん。

〔9番（中元悠翔さん）登壇〕

○9番（中元悠翔さん） 「地球温暖化を止めるためにできること」

僕は、地球温暖化を止めるために、家庭や会社に太陽光パネルや蓄電池の設置などにかかる費用を彦根市が補助することを提案します。

最近、だんだんと暑くなってきている気がします。実際に気温の上昇や南極の氷が解けているというニュースをよく目にします。生活環境課の方にインタビューをすると、太陽光パネルの補助はしているとおっしゃっていました。でも、僕は、あまり身近に太陽光パネルが広まっているとは思えません。

彦根市ではどのような温暖化対策をされていますか。

また、SDGsの13に「気候変動に具体的な対策を」という目標があります。少しでも二酸化炭素を減らすために、必要なときだけ電気をつけることや公共交通機関を使うなどのことができます。

僕たちは身近なことから取り組んでいくので、彦根市としては、太陽光パネルだけではなく蓄電池の補助をすることを提案します。彦根市と僕たちで力を合わせて温暖化を食い止めていきましょう。

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 市民環境部長。

○市民環境部長（北村典彦さん） 中元悠翔さんからの「地球温暖化を止めるためにできること」についてお答えをいたします。

初めに、彦根市では太陽光パネルの補助のほかにどのような温暖化対策をしているかですが、本市では、住宅のリフォームをするときに設置を考えていただけるように、太陽光パネルの設置のほかに、効率的にお湯を沸かす給湯器の設置や熱が逃げにくくなる二重窓に改修することなども補助の対象にしています。

そのほか、中元さんが身近なことから取り組もうと考えていただいているように、皆さんにとって取り組みやすい節電も温暖化対策の一つになります。そのため、本市では夏場のエアコンで使う電気を少なくできるように、ゴーヤなどの植物を育てて緑のカーテンを設置する方法を教える活動や、ゴーヤの苗の配布なども行っています。

次に、蓄電池を設置することに対して補助をするご提案につきましては、蓄電池は太陽光パネルで発電した電気をためておくことができ、太陽が見えない天気や夜でもためてお

いた電気を使うことができますことから、中元さんが考えていただいたように、本市では蓄電池の設置も、先ほどお答えをいたしましたリフォームをするときの補助の対象にしております。

地球温暖化を食い止めるには、中元さんがおっしゃいますように、世界中のみんなが力を合わせて取り組んでいく必要があります。そのため、本市では、今後も温暖化対策の必要性について、市の取組を通じて皆さんにお伝えしていきたいと考えていますので、これからもご協力をよろしくお願いをいたします。

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 中元さん。

〔9番（中元悠翔さん）登壇〕

○9番（中元悠翔さん） これで私の質問を終わります。

ありがとうございました。（拍手）

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 10番永江広奈さん。永江さん。

〔10番（永江広奈さん）登壇〕

○10番（永江広奈さん） 「街路樹が整備された彦根市にするために」

私は、街路樹が整備されたすてきな彦根市にすることを提案します。

私の通う亀山小学校前の通学路は今歩道が整備され、道沿いの街路樹が伐採されました。この街路樹は、暑い夏の日には木陰になり、風が強い日は風よけになり、私はこの街路樹の下を歩くことが好きでした。

また、登校の集合場所の公園にも大きな木がありますが、枯れてきて危険とのことで、最近伐採されてしまいました。彦根市以外にも危険な木があることは倒木のニュースで知っていますが、身近に緑を感じて、季節の変化を楽しんだり、温暖化や空気汚染の対策としても、緑を守り育てていく活動が大切だと感じています。

彦根市では、緑を守ること、また、整備で伐採するだけでなく、緑を新たに増やし育てていく活動などは行われているのでしょうか。

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 市長。

○市長（和田裕行さん） 皆さん、こんにちは。彦根市長の和田裕行です。子ども議員の皆さん、すばらしい。誰も寝ていない。しっかりと質問していただいてありがとうございます。

では、永江広奈さんのご質問、「街路樹が整備された彦根市にするために」について私からお答えします。

非常にいい質問で、なぜ突然街路樹が切られたといたら、今おっしゃっていただいたように、せっかく日よけにもなっていて、緑を感じているのになぜだということがあるんですけど、そういうときは反対の大きな理由があります。今回は亀山小学校の通学路の安全を確保するためにどうしても切らなければいけなかったということです。木を植えた当時は大丈夫だったんですけども、どんどん成長していくと、多分、道の半分ぐらいにまでなってしまって、アスファルトやブロックを越えるぐらいに根が発達するんですね。

そうすると、もちろん車椅子の方とか、荷車を引いておられる方とか、ご年配の方でつまずいたりするという非常に危険なことがあるので、やむなく、通学路、道としての安全を確保して今回は切らせてもらいました。だから、大きな二つの利益があるんですね。緑の環境を守らなきゃいけないということと、安全を守らなければいけないということで、今回はちょっと安全を優先させていただきました。

ただ、本当におっしゃっていただいたように、緑を増やす活動というのは当然彦根市でもしていますけれども、通学路の安全じゃないところで植樹したりとか、何とか緑を守っていこうということはみんなで考えて、同じだけ、緑が減らないようにみんなで考えて、その自然という環境も守っていききたいなと思います。すごくいい質問だと思います。

常に、皆さんもそうなんですけれど、二つ利益があるんですよ。みんながこれをこうこうしたい、例えば新幹線が欲しいとか言っていただきましたけれども、その一方で、こっちが言っているのは、お金がないですと言っています。どうしても二つある、そのバランスをとるんですね。どうしてもやらなければいけないことにお金をつけるんですけど、どこまで出せるかという限界があるので、今回は、環境と安全で安全が優先されたということです。

それと、もう一つ、皆さんに勉強していただきたいのは空間と時間です。今、木が広がって空間的に厳しくなったから、道を広げるために、安全を確保するため柵もつけるんですけど、通学路というところだったんですけど、今度、時間で見てもらったときに、本当に木を植えるときに正しかったか、そういうことはやっぱりみんなで考えてもらいたいと思います。ものをつくると、つくるときはいいんですけど、ものすごく実は維持費の方がかかるんですね。だから、何か新しいものをつくったら、つくっただけのお金では済まないです。

例えば、皆さんが1億円宝くじで当たって、1億円の家を建てたら、すぐ破産してしまいます。1億円の建物をずっとやろうと思うと毎年何百万円もかかっていくので、毎年何百万円も入ってこない、その1億円の家というのは維持できないんですね。だから、何かをするときって、新しいことをするときというのは、ずっと時間を見て、20年、30年、皆さんが大人になったときも大丈夫かなという、どれぐらいお金がかかるのかなという思いでやらなければいけないので、我々も、これからもし木を植えるようなことがあったら、20年後、30年後、こんなふうに木が大きくなって通学に支障が出ないような木の植え方をこれからしていかなければいけないという二つを考えていきたいと思いますので、ご理解いただきたいと思います。

以上です。

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 永江さん。

〔10番（永江広奈さん）登壇〕

○10番（永江広奈さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 11番藤岡和恩さん。藤岡さん。

〔11番（藤岡和恩さん）登壇〕

○11番（藤岡和恩さん） 「居場所を見つけられるアプリの提供」

私は、自分の居場所を気軽にを見つけられるように「彦根！居場所マッチングワールド！」というホームページやアプリをつくることを提案します。

私は最近、人と触れ合う機会が減っているように感じます。また、今の人は忙しくて余裕がないように感じるので、自分のやりたいことができる居場所が必要だと思ったからです。

「彦根！居場所マッチングワールド！」は、市に管理してもらい、市民だけでなく多くの方が利用できるものです。そこには人の交流ができる場所やイベントがたくさん掲載されています。そこから自分の興味のあるものを探して気軽に行けるようにするものです。具体的には図書館やプロシードアリーナ、お寺などです。いろいろな世代、または同じ世代の人と楽しんだり、自習したり、行って何もしなくても、1人でいてもいい居場所を探しマッチングするものです。図書館や公民館など、近くにある市の施設も居場所になるといいと思います。お寺など、居場所になってくれる一般の施設も取り入れるといいと思います。

私は、いろいろな人の交流につながったり、安心していられる居場所を気軽に探したりすることのできる「彦根！居場所マッチングワールド！」というホームページやアプリをつくることを提案します。

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 企画振興部長。

○企画振興部長（疋田元伯さん） 藤岡和恩さんの「居場所を見つけられるアプリの提供」、「彦根！マッチングワールド！」のご質問についてお答えをします。

とても魅力的な提案で、本当にありがとうございます。このようなアプリがあれば、自分のいたい場所を探して行ってみたいと夢が膨らむものだと思っております。

さて、現在、全国的には地域でのつながりが弱くなっていることや、また、少子化による子ども・若者同士の育ち合い、学び合いの機会が減少していることなどによって、子ども・若者が地域コミュニティの中で育つことが困難になっていると言われております。また、市内でも自治会が解散をされているというような事例もございます。さらに、共働きの世帯や高齢者の方の就業率が増加傾向にありまして、これらのことが、藤岡さんの「人と触れ合う機会が減っている」や「今の人は忙しくて余裕がない」という実感につながっているのではないかと考えております。

このたび、ご提案いただきましたホームページやアプリに関しまして、年齢を問わず、自分がやりたいことができる居場所や交流の場についての情報としては、例えば図書館とか公民館、また市が主催するイベントなどは、現在、彦根市のホームページに掲載をしております。また、公民館で活動されているサークルの情報は、各公民館のホームページの方で確認していただくことができます。さらに、市が運営しているものではございません

が、F a c e b o o kや民間のアプリなど、地域コミュニティやS N Sを活用して交流の場を見つけることができます。

引き続き、コミュニケーションや交流の拠点となるような情報を充実し、藤岡さんが思い描かれる居場所を見つけられるような情報の提供に努めていきたいと考えております。

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 藤岡さん。

〔11番（藤岡和恩さん）登壇〕

○11番（藤岡和恩さん） 再質問をします。

気軽に居場所を見つけられるようにするためのホームページやアプリは、ほかにどのようなものがあるのですか。

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 企画振興部長。

○企画振興部長（疋田元伯さん） 今お答えしましたように、民間の方でも、かなりこのアプリというのは使われています。皆さん、今、多様な趣味をお持ちになっておられます。そうした中で、したいこと、それから場所、そういったものを検索していくと、いろんなところのアプリから探し出すことができるかなと思います。

市の方につきましては、ホームページやY o u T u b eなどでいろんな情報を発信しています。そうした発信を見ていただくことと、併せて民間の方が使われているようなアプリ、そういった部分も両方使いながら自分に合った場所というのを見つけていただければなと思いますし、やはりそれぞれ行った方がお話をして、そこで共感が得られるというのが一番大事だと思いますので、互いにアプリだけではなくて、友達同士で話し合っていたきながら、いろんな居場所を皆さんでそれぞれ探していただくのが一番いいかなと思いますので、よろしくお願いします。

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 藤岡さん。

〔11番（藤岡和恩さん）登壇〕

○11番（藤岡和恩さん） ありがとうございました。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 12番藤塚琴葉さん。藤塚さん。

〔12番（藤塚琴葉さん）登壇〕

○12番（藤塚琴葉さん） 「快適な温水プールの設置について」

私の学校ではプールを嫌がる人がたくさんいます。たくさんの人から「地獄の冷水シャワーが嫌」や「寒過ぎる」という声をよく聞きます。また、A l l A b o u tというインターネット掲示板で水泳の授業が好きかどうかの調査をしたところ、半数の人が嫌いと書いてありました。その理由は、「冷水のシャワーが嫌」など、水に関することが嫌だと分かりました。

具体的には、稲枝北小学校のプールを温水プールにすることを提案します。理由は、プールが冷た過ぎて、上がったときに震えている人がいるからです。ほかに雨が降っていても水が冷たくならないので、みんなプールの授業が好きになるからです。また、稲枝北小

学校だけではなく、近隣の保育園にも使用してもらえるからです。

以上の点を改善することでみんなが楽しく水泳に取り組めるようになると思います。

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 教育部長。

○教育部長（小島久喜さん） 藤塚琴葉さんからの「快適な温水プールの設置について」のご質問にお答えします。

ご提案いただいたように、プールを温水プールにすると水泳の授業が好きになる人がもっと増えるかもしれません。また、近隣の保育園の乳幼児の使用を考えている点も、周りの人たちのことも考えられていて素晴らしいと思います。

しかしながら、藤塚さんからご提案いただいた学校のプールを温水プールにする場合、大きく二つの課題があります。

一つ目は、多くの費用が必要となることです。学校のプールを温水プールにする場合、エネルギーを効率よく使うために屋根や壁を取り付けて屋内プールにする必要があります。さらに、現在、学校にあるプール全体を覆う大きな建物を造るとなると、安全面からも、簡易なものではなく、年間を通して強風や積雪にも耐えることができる丈夫なものでなければなりません。新築で屋内プールを一つ建てる場合の費用は数億円になると見込まれます。

二つ目は、建物を造るときの課題です。今あるプールに後から建物を設置する場合、柱などの設置場所の確保や、プールの形に合わせた屋根の材料の組合せ方を建築の専門家に認めてもらう必要があります。

これらのことから、学校のプールを温水プールにすることは難しいと考えていますが、今後も、皆さんが安全に学校生活を送れるよう、よりよい学校環境の整備に努めていきたいと考えております。

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 藤塚さん。

〔12番（藤塚琴葉さん）登壇〕

○12番（藤塚琴葉さん） ありがとうございました。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 13番森陽彩さん。森さん。

〔13番（森 陽彩さん）登壇〕

○13番（森 陽彩さん） 「歩道橋設置について」

私は、学校に行く道の横断歩道を歩道橋にすることを提案します。

私は高宮小学校に通学しているのですが、登下校のときに国道8号線を渡ります。国道8号線の横断歩道を渡るときに待ち時間があるのですが、その際に小学生の登下校の列でほかの人に迷惑になっていることがあります。歩道橋をつくると、その待ち時間がなくなるので、ほかの人に迷惑がかからなくなると思いました。また、横断歩道を渡る際に信号を無視する車が時々いて、横断する人が危ないと思うことがありました。

私は、今年、登校班長をしているので、1年生が安全に横断できるか少し心配です。歩

道橋にすれば、信号を無視する車がいても安全に学校へ行けると思いました。また、歩道橋にすれば車の渋滞も防げますし、車が信号で止まることが減るため、急いでいる人がスムーズに運転できるのでいいと思いました。

歩道橋を1か所設置するのには3億円かかり、造るのには5年かかると聞きました。そのため、学校の登下校のときに大きな道路を通る学校だけ、通学路の横断歩道を歩道橋にした方がいいと思います。

このような理由があるため、私は学校に行く道の横断歩道を歩道橋にすることを提案します。

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 建設部長。

○建設部長（關谷真治さん） 森陽彩さんからの歩道橋設置についてお答えします。

まず、森さんが毎日利用されている通学路については、平成24年に京都府亀岡市で起きた集団登校中の大きな交通事故をきっかけとして、これまで対策を継続して行っております。

この対策につきましては、各小学校において、毎年、学校の先生、教育委員会、警察、道路管理者である国・県・市が合同で行う通学路の点検や対策を実施するもので、高宮町の国道8号におきましては、通学路の危険箇所の確認や地域からの歩道整備の要望を受けて、これまで国において対策が進められているところです。

具体的には、新たな歩道の整備や拡幅、歩道を守る柵の設置、信号機の時間調整などを実施されており、特に平成29年度以降は、高宮町南交差点において、通学ルートに合わせて安全に待機できる場所の整備や太田川に橋を架けるなど、集中的に対策が行われてまいりました。

森さんご提案のように、歩道橋を設置すれば、歩行者は信号を待つ時間や車を気にせず安全に道路を横断することができ、車もスムーズに道路を走ることができるようになりますが、バリアフリーの観点から100メートルほどの長さのスロープという坂道が必要で、遠回りになり不便を感じる方もおられると思います。

ご提案の歩道橋設置について、国道8号を管理する滋賀国道事務所に問い合わせしましたところ、歩道橋を設置するためには交通量や道路幅、事故の状況などの基準があり、また、車椅子を使用している人が歩道橋を渡るためにはスロープやエレベーターの設置が必要になるなど、基準だけでなく、場所の条件や高額な費用が必要となり、設置には多くの課題があると聞いているところです。

ご指摘の場所につきましては、昨年に国による安全対策が終えられておりますので、今後、対策後の検証を行って、皆さんがより安心して通学できるように、引き続き状況を見ながら安全対策に取り組んでまいりたいと考えております。

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 森さん。

〔13番（森 陽彩さん）登壇〕

○13番（森 陽彩さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。(拍手)

○第2グループ議長(田辺蓮美さん) 14番喜多玲音菜さん。喜多さん。

〔14番(喜多玲音菜さん)登壇〕

○14番(喜多玲音菜さん) 「スクールバスの導入について」

私は、安全な登下校のためスクールバスを導入することを提案します。

私はバス通学をしています。今利用している路線バスには一般のお客さんも乗ってこられます。私たちの登校班は全員で約30人います。バスの中で大きな声を出している人や降りないところで止まりますボタンを押してしまう人がいて、迷惑をかけてしまうことがあります。また、荷物が多い日は重たくて、立っているととても疲れます。

今はバスの時刻に合わせて1時間目が始まる時間が決まっていますが、ほかの学校よりも約10分ぐらい遅いと聞きました。スクールバスがあれば、登下校の時刻が早くなり、家で勉強する時間などが増えます。

また、今はバス停から学校までに細い道があり、雨の日は傘を差していると危ないです。でも、専用のスクールバスがあれば、学校の前まで安全に行くことができます。

そこで、私はスクールバスを導入することを提案します。

○第2グループ議長(田辺蓮美さん) 教育部長。

○教育部長(小島久喜さん) 喜多玲音菜さんからの「スクールバスの導入について」にお答えします。

毎日、通学で利用している路線バスの状況やバスの中での自分たちの行いを振り返り、ほかの人に迷惑がかからないように安全に通学するにはどうしたらよいか、また、待ち時間を減らし、時間を有効に使うためにはどのような方法があるかと考え、提案いただき、ありがとうございます。

ご提案いただいたとおり、スクールバスがあれば、学校の児童だけが利用するので、より学校や家と近い場所で乗り降りができ、出発時間も学校のスケジュールに合わせて柔軟に設定ができるので、今よりもさらに利用しやすい環境になると考えられます。

一方で、バスの運転手の確保やバスの維持管理に係る費用が新たに増え、今より多くの費用が必要となります。また、送迎以外はバスを利用しないので、バスをとめておく場所が必要になります。さらに、バスの清掃や安全点検も定期的に行う必要があります。

これらのことから、市教育委員会としましては、今ある路線バスや公共交通機関を使っても通学ができない地域からの通学が必要となった場合は、スクールバスの導入を検討していかなければならないと考えており、現在はスクールバスの導入を考えておりませんので、ご理解をお願いいたします。

これから皆さんが成長していく中で、電車や路線バスなどの公共交通機関を利用する機会が増えていくと思います。公共交通機関を利用するマナーを身につけることは大事ですので、マナーについて皆さんで話し合ってみてください。

○第2グループ議長(田辺蓮美さん) 喜多さん。

〔14番（喜多玲音菜さん）登壇〕

○14番（喜多玲音菜さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 15番片瀬実優さん。片瀬さん。

〔15番（片瀬実優さん）登壇〕

○15番（片瀬実優さん） 「学校のプールに屋根をつけることについて」

私は、学校のプールに屋根をつけることについて提案します。

屋根をつけた方がいい理由は全部で四つあります。

一つ目は、子どもの健康面についてです。年々気温が高くなり、直射日光が当たる中でプールをすることで熱中症の危険が高まると考えられます。また、最近はプールサイドのやけどもあったりと、プールには危険なことがたくさんあるので、屋根をつけた方がいいと考えます。

二つ目は、防犯面についてです。プールの周りに高いビルやマンションがあると、そこからの水着姿の盗撮などの犯罪につながるからです。私が通っている城東小学校には、高いところには駐車場があり、学習中にもいろいろな人が通ります。その人たちが犯罪をする可能性があり、少しでも可能性を減らすことができるように、屋根の取付けをするといふと考えます。

三つ目は、衛生面についてです。屋根がないプールだと鳥のふんが落ちていることもあり、私の学校でもプールが汚いと話していた友達もいて、私自身も困っていました。その場合、屋根があると鳥のふんの被害も少なくなり、より清潔なプールを保つことができると考えます。

四つ目は、学習日数についてです。夏は梅雨の時期や温度、水温の関係でプールに入ることができない日もありましたが、屋根をつけることで小雨の実施や、温度が高温となりできないということを避けることができます。そうすることで水泳の学習が増え、泳ぐことができる人も増えると考えます。

楽しい水泳の授業を嫌いにしないために、プールに屋根をつけることを提案します。

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 教育部長。

○教育部長（小島久喜さん） 片瀬実優さんからの「学校のプールに屋根をつけることについて」のご質問にお答えします。

よりよい学校環境のためにご提案をいただき、ありがとうございます。ご提案いただいたように、プールに屋根をつけることは、天候などに左右されないことに加え、直射日光を避ける熱中症対策、盗撮などの防犯対策、鳥のふん害対策、水泳学習の日数対策など、あらゆる面で皆さんの心身の健康を考えたよい案であると考えます。

ただし、現在学校にあるプール全体を覆う大きな屋根を造るとなると、安全面から簡易なものではなく、年間通して強風や積雪にも耐えることができる丈夫なものでなければなりません。また、今あるプールに後から屋根を設置する場合、柱などの設置場所の確保、

また、プールの形に合わせた屋根の材料の組合せ方を建築の専門家に認めてもらう必要があるなどの問題があり、それらの問題を解決しようとする、多くの費用がかかることが見込まれます。

なお、屋根を設置する具体的な費用については、詳しい検討をしておりませんので、お答えすることはできませんが、新築で屋内プールを一つ建てる場合の費用は数億円になると思われます。そのため、現状においては、プール全体に屋根をつけるのではなく、プールサイドにパーゴラと呼ばれる日よけの場所を設けており、そこで直射日光を避けるなどして熱中症の予防などへの対応をしていくこととしています。

今後も、皆さんが安全に学校生活を送れるよう、よりよい学校環境の整備に努めてまいりたいと考えております。

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 片瀬さん。

〔15番（片瀬実優さん）登壇〕

○15番（片瀬実優さん） ありがとうございました。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 16番コルトン恵里さん。コルトンさん。

〔16番（コルトン恵里さん）登壇〕

○16番（コルトン恵里さん） 「少子高齢化について」

今、高齢化が問題になっていますが、それに対してどのような対策をしているかについて、彦根市の企画課の人に質問をしました。そこで分かったことは、若者が彦根市に魅力を感じてくれるためには、医療費や給食費を安くしようということでした。また、一方で少子化も進んでいることを知りました。

そこで提案します。高齢の人も病院に行くことに困っています。病院の予約をエリアで決め、そこから出発する無料タクシーをつくってみてはどうでしょうか。そうすれば費用もかからず、タクシーという便利なもので病院へ気軽に行けます。実際、私の祖父が病気にかかって、誰も運転する人がいなくて、病院に連れていけなくて困ったことがありました。そんなとき、この無料タクシーがあれば、運転できる人がいなくても安心して行くことができると思います。

私の住んでいる所が特に少子高齢化が進み、気になっていますので、よろしくお願いします。

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（大久保裕次さん） コルトン恵里さんからの少子高齢化についてお答えします。

高齢者の通院用の無料タクシーの運行につきましては、幾つかの課題がございますので、今のところは非常に難しいと考えております。

まず、病院の予約をエリアで決めることについてです。本来、予約は本人と医療機関のお互いの都合で成り立つものでございます。この仕組みを変えるには、市民の皆さん、そ

して全ての医療機関の合意が必要になりますので、現実的には難しいと思います。

次に、各エリアから出発するタクシーについてでございます。現在、市内は鉄道やバス、タクシー、そして愛のりタクシーといった公共交通機関でカバーできておりますので、新たに各エリアから出発するタクシーを導入することは考えてはおりません。

次に、タクシー料金の無料化についてでございます。まず、本市の65歳以上の高齢者数は約2万9,000人、これは人口の26%を占めております。一つの事例でございますが、仮にこれらの全ての人がタクシーを使って、例えば1か月に1回通院をされます。そうしますと年間12回、そして、タクシー代を片道500円、往復で1,000円としますと、最大で年間約3億5,000万円の予算が必要になってまいります。しかしながら、現在の本市の財政状況は非常に厳しいものがございますので、国や滋賀県からの財政支援が見込めないこうしたタクシー代といったものを負担する余裕は、残念ながらない状況でございます。

また、我が国が目指しております今後の社会保障の方向性といいますと、年齢に関わりなく、全ての国民がその能力に応じて負担して支え合うことが示されております。このため高齢者の方にも費用負担をしていただく方向に向かっているのが実情でございます。

その一方で、我々が担当します福祉分野の取組についてでございます。これからの地域社会の在り方は、人と人とがつながること、そして、支え合いづくりを目指していく方向になっておりまして、全国でその取組が進んでいます。その中でも、今回ご提案がありました誰も運転する人がいないという地域の課題に対しましては、高齢者の移動や外出支援などをします住民の助け合い活動が生まれるように、本市におきましても、地域に対して側面から支援をしているところでございまして、こうした地域の活動は、現在、市内の17の小学校区のうち九つの小学校区で始まっているところであります。

最後に、本市の福祉分野では、今後も皆さん方に対しまして、福祉教育や福祉を学ぶ機会の充実に力を入れていきたいと思っております。そして、市民の皆さんの地域での支え合いへの理解が深まって、たくさんの福祉活動の担い手の方が誕生することを期待したいと思っております。また、無人の自動運転、これが発達しますと、誰も運転する人がいないというような課題の解消にもつながるかと思います。このため、今後の技術の進歩も見守りながら、市民の皆さんの中の高齢者の特に移動や外出がしやすいまちづくりを進めていきたいと考えております。

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） コルトンさん。

〔16番（コルトン恵里さん）登壇〕

○16番（コルトン恵里さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（田辺蓮美さん） しばらくの間、休憩します。

○議会事務局長（杉本弘之さん） お知らせいたします。休憩時間は10分程度といたします。

午前11時04分休憩

午前11時11分再開

○議会事務局長（杉本弘之さん） 皆さん、こんにちは。

本日は、第15回子ども議会にお越しいただきましてありがとうございます。

ご来場の皆様方に何点かお願いをさせていただきます。子ども議会取材のため、議場内に報道機関が入って撮影をされますので、ご了承いただきますようお願いをいたします。保護者の皆様、傍聴者の皆様には、本会議中の撮影は傍聴席のみからとさせていただいておりますけれども、本会議終了後に撮影時間を設けておりますので、議場内での撮影は本会議終了後をお願いをいたします。

なお、議場内では飲食禁止とさせていただいております。また、携帯電話をお持ちの方は、電源を切っていただくか、マナーモードの設定をお願いをいたします。

○第3グループ議長（後藤響太朗さん） 議長を交代しました。城南小学校、後藤響太朗です。よろしくお願いします。

休憩の前に続いて会議を開きます。

第3グループの順番は、17番大菅麻央さん、18番疋田羽瑠さん、19番飯田大和さん、20番大崎花奈さん、21番山口愛加さん、22番野瀬悠成さん、23番桐畑琉楓さん、24番田辺蓮美さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

17番大菅麻央さん。大菅さん。

〔17番（大菅麻央さん）登壇〕

○17番（大菅麻央さん） 「体育館にクーラーを設置してほしい」

私は、熱中症対策やスポーツに集中するために、小・中学校の体育館にクーラーを設置してほしいと思っています。

私の小学校では暑さ対策のために扇風機が設置されています。しかし、体育科の学習のときに、扇風機では近くでないと風が当たらないので、体育館全体が涼しくならず、授業に集中できなかったり、体調が悪くなったりしてしまいます。さらに、ボールを使った学習はボールが当たりそうになって危ないです。もし体育館にクーラーが設置された場合、体育館全体に冷気が行き渡り、暑さを気にせず授業やプレーに集中できます。

また、地震や大雨の自然災害が起こり、学校が避難所になっているニュースをよく目にします。35度を超える日が多く、熱中症警戒アラートもよく出たりしています。もし災害が起こって避難所となった場合、暑い中だから具合が悪くなったりする人が出てくると思います。

クーラーが設置されると、学習のときなど危ないこともないし、避難所としても快適に過ごせると思います。だから、私は小・中学校の体育館にクーラーを設置することを提案します。

○第3グループ議長（後藤響太朗さん） 教育部長。

○教育部長（小島久喜さん） 大菅麻央さんからの「体育館にクーラーを設置してほしい」

い」のご質問にお答えします。

体育の授業だけではなく、避難所として小・中学校の体育館を使うことを考えるなど、複数の点から効果的な提案をできることはすばらしいことと思います。

体育館にエアコンを設置するためには、エアコン本体の費用に加え、冷えた空気をそのままにするための断熱用の壁や天井に改修する工事也成为必要となり、多くの費用がかかることとなります。さらに、過去に取り付けた保健室や教室のエアコンがだんだん古くなり、これらを優先して取り替えていく必要があることから、体育館にエアコンを設置することは大変難しい状況です。

なお、現在、体育館で使用している扇風機は、身体に当てるのではなく、換気を十分に行って温度上昇を防ぐ役割をしています。

また、各学校では暑さ指数を計測して、運動することが危険な数値のときは体育館を使用しないで授業をしています。

また、皆さんが学校で長く過ごす場所である教室には既にエアコンを取り付けており、学校を避難所として使用する場合は、体調が悪くなってもエアコンがある教室を利用するなど、安心していただける方法を考えているところでございます。

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 大菅さん。

〔17番（大菅麻央さん）登壇〕

○17番（大菅麻央さん） ありがとうございました。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 18番 疋田羽瑠さん。疋田さん。

〔18番（疋田羽瑠さん）登壇〕

○18番（疋田羽瑠さん） 「大きな地震への備えの充実を」

僕は、大きな地震が来たときに備えるための提案をします。

彦根市は、大きな地震に備えて彦根市地域防災計画をつくったり、彦根市民全部の家に防災マニュアルを配ったりしているそうです。市として様々な取組もされていますが、僕は、さらに防災グッズを必要だと思っている人に配ることを提案します。僕が配るとよいと思うものは、例えば防災マニュアルに載っているようなL字金具や飛散防止フィルムです。必要とする人は市役所に取りに行けるといいと思います。

ほかには、学校での避難訓練で机の下に隠れたりするだけでなく、バスに乗っているときなど、いろいろなパターンを想像して訓練をしたりするのもいいと思います。学校の避難訓練だけでなく、地域での避難訓練や防災訓練がもっと充実すると思います。

以上、僕は、彦根市のみんなの命を守るために大きな地震が来たときの備えを充実させることを提案します。

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 市長直轄組織危機管理監。

○市長直轄組織危機管理監（近藤弘明さん） 疋田羽瑠さんからの大きな地震への備えの充実についてお答えします。

提案して下さった防災グッズを配るということは、市民の皆さんに地震や災害に備えなければいけないんだという気持ちを持っていただくために非常に大切なことだと思います。

ご提案のL字金具や飛散防止フィルムなどの家具の固定や転倒防止、窓や食器棚のガラスの飛散防止のように、家の中の防災対策はとても大事なことです。そのグッズについては、家具やガラスの大きさや材質によってご家庭ごとに必要になる製品が異なりますので、家に合った製品をご自分で用意していただく必要があると思っております。

しかし、彦根市では、市民の皆さんへの直接の配布はしていませんが、防災備蓄品といって、災害が起きたときに市民の皆さんに配布する食べ物や毛布などを小学校などの避難所に備えるようにしています。食べ物については、どうしても賞味期限があり、毎年その年で賞味期限が切れるものが出てきます。彦根市では、こうした賞味期限がその年で切れてしまう備蓄品の食べ物を各町の自治会の皆さんなどに配り、災害に備えるという気持ちを高めていただくようにしています。

また、提案して下さったいろいろなパターンを考えて避難訓練をすることは、実際の災害へ対応するのにとても大切なことだと思います。彦根市では、年に1回ですが、市民が参加していただける彦根市防災訓練を実施しています。また、学校以外にも独自で防災訓練を実施されている自治会や団体もあります。今後も、「広報ひこね」、ホームページなどでのお知らせなど、いろいろな場を通じて多くの団体等に防災訓練の実施を呼びかけていきたいと思っています。その取組の中で、市も含めていろいろなパターンでの避難訓練ができないか、考えていこうと思っています。

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 正田さん。

〔18番（正田羽瑠さん）登壇〕

○18番（正田羽瑠さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 19番飯田大和さん。飯田さん。

〔19番（飯田大和さん）登壇〕

○19番（飯田大和さん） 「彦根市は人口減少に対してどのような対策をとっているか」

人口が減少している地域に対し、彦根市はどのように考え、どのような対策をとっているのかお聞きします。

僕は鳥居本に住んでいて、鳥居本が大好きです。その理由は、1、住民が優しい、2、地元ならではの建物、有川製薬、鳥居本駅、宿場町がある。3、グラウンドゴルフ、ボッチャ、カロム大会、お祭りなどのイベントがあるからです。しかし、最近、家族と話している中で、僕の住んでいる鳥居本の人口が減っていることが分かり、このままではどんどん減っていくと思い、不安になりました。

人口が減少している地域は鳥居本だけではないと思いますが、彦根市としての考えや対策などについてお聞かせください。

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 市長。

○市長（和田裕行さん） それでは、私から、飯田大和さんの人口減少についての取組についてお話をさせていただきます。

まず、全国的に人口というのは減り出します。何が一番かということと少子化です。少子高齢化ってよく言いますけれども、寿命は延びていっているんで、人口が減っていくというのはやっぱり一番少子化というところで、合計特殊出生率というの難しいんですけども、話を分かりやすく言うと、夫婦2人いたら、今日本では1.2人しか子どもがいない。まず減ってきますよね。2人から1.2人。東京だと0.99人だから、2人でも1人産まれないような状況で、どんどん減っていっているという全国的な流れがあります。

参考までに、じゃあ人口が減って行ってまちがなくなるよという調査が出ました。消滅可能性自治体というのですが、それをどうしたら乗り越えるかということで、一番大事なのは、実は女性の働く場、若い女の人たちが働く場所がなくなると、どうしても人口が減って行ってまちが減んでしまうというような問題に直面していますので、一番大事なのはそこです。若い女性が働く場所をつくっていくということは非常に重要。当然、彦根市でも、それだけではないんですが、そこというのは着眼していかないとどうしても人口が減って行ってしまいます。

増やすまでに、まず止めなきゃいけないですよ。彦根はどうやって人口減少を止めるかということ、やっぱり魅力的なまちにしていかなければいけないというのがあります。それを今全力でやっているんですけども、実を言うと、どれが欠けても駄目なんです。学校、教育機関が例えば彦根市ってすごいじめがあるよなんて広まったら、絶対誰も住んでくれないですし、彦根で病気にかかっても診てもらえるお医者さんがいないですよとか、火事になったら消防車が来るの遅いですよなんていったら、それは駄目なので、彦根市が全部機能しなければ、人口というのをまず減らさない努力をしなければいけないというところなんです。

でも、どうやって増やすかというところで踏み出せることということ、まず関係人口というものを増やす。関係人口というのは、彦根市に関係する、あるいは遊びに来る、観光客もそうなんですけれど、そういうのを増やして、最終、彦根を気に入ってもらって住んでもらうというのを目指していかなくちゃいけないというところで、まず関係人口を増やすという意味では、実は彦根市はすごく有利で、今、すごい少子化が進んでいても、彦根はずっと横ばいで、ちょっと減っているぐらいなんです。

例えば彦根城世界遺産登録、これも2027年見えてきました。これになるといったら、観光客も世界中から来てくれるというようになりますし、ひこにゃんもすごく人気あるので、みんな来てくれていますし、今、わるにゃんこ将軍というのも出ましたけれども。この間負けたんですけど、実はサッカーのJリーグを目指していたりとか、実は鳥居本にはオープンセットといって、山の奥の方で、一番北の方で映画の撮影も行われています。彦根でほとんど撮影している時代劇じゃない映画もいっぱいあって、皆さんが知って

いる有名人も彦根で撮影して、鳥居本でも撮影されているので、そういった中で彦根の魅力を全国に。今だったらやっぱりSNSですね。YouTubeやInstagramやX、そういったもので彦根ってこんなすごいところですよということを発信するというのを今力を入れていますので、そうやって来ていただいた中で、やっぱり彦根はいいところだと思って住んでいただけるようにしたいなと思います。

もう少し狭めますと、鳥居本も今言ったようにオープンセットもあるんですけど、何といても、やっぱり中山道の宿場町で、さっき言っていただいた有川製菓さんの曲がるところなんていうのは映画の撮影にもぴったりですし、観光で歩いてもらうにもすごくいいですし、食べ物もおいしい。あるいは、いろんな魅力が鳥居本でもまだまだ発信できます。観光も自然も豊かですね。男鬼も、鳥居本ですからね。もっと観光資源にも使えたりとか、いろんな可能性がある中で、そういった中でいろんな人に見てもらって、移り住んでもらうようにして、少しずつしていくことがこの少子化対策につながると思います。

実は、まず踏みとどまって人口を増やしていこうということは一番大事なんです。お金のないまちは特に大事なんです。そこが一番大事なので、一番大事な質問だと思いますので、皆さんが大人になるときには彦根市が30万人になっているようなまちを目指して頑張っていたきたいと思います。ありがとうございます。

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 飯田さん。

〔19番（飯田大和さん）登壇〕

○19番（飯田大和さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 20番大崎花奈さん。大崎さん。

〔20番（大崎花奈さん）登壇〕

○20番（大崎花奈さん） 「みんなが参加できるひなん訓練実施について」

私は、国語の授業でアンケートをみんなでつくり、各地域の人に答えてもらったことがあります。その中でも「避難訓練がなく、町民が緊急時の動きが分かっていないことが心配」という声が上がっており、私もそれに共感しました。

そこで、危機管理課の人たちに聞くことにしました。聞いて分かったことは、避難訓練は各町に呼びかけているだけで、しているところとしていないところがあるということが分かり、実際、私のまちでは避難訓練をしていないと思います。

そこで、避難訓練を実施するために二つの提案をします。

一つ目は、「避難訓練をコンパクトにする」です。コンパクトにすれば、時間がなかったり、面倒くさいと思っている人も避難訓練に参加できると思ったからです。

二つ目は、「イベントと合わせて避難訓練をする」です。家に子どもが1人にいるときに災害があった場合、緊急時の動きが分かっていたらとても危険です。ですから、イベントと合わせることで子どもも大人も参加をと思ったからです。

災害があった後から避難訓練をしても意味がないことはありませんが、災害については

取り返しがつきません。だから、避難訓練をコンパクトにしたり、イベントと合わせたりして、みんなが災害のとき安全に避難できるように、この避難訓練を企画してもらえないでしょうか。

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 副市長。

○副市長（安藤 博さん） それでは、大崎花奈さんからの「みんなが参加できるひな訓練実施について」にお答えをいたします。

大崎さんも覚えておられると思うんですが、今年の元日には能登半島で大きな地震がありましたし、また、この夏、同じくまた能登半島で、線状降水帯といって大雨が降って洪水になったということでございますので、そういうことからいたしますと、大崎さんが提案いただいているように、日頃から避難訓練、避難の体制をどうとっていくのかということとは意識していかなければいけないことでございます。

そのとき、地震や洪水などの災害が発生したとき、市から発令する避難指示や高齢者等避難などの避難情報を聞いて、いち早く避難してもらうことはとても大事なことです。そして、災害が発生したときにスムーズに避難してもらうためには、学校、会社、自治会などで何度も何度も繰り返し避難訓練をしてもらうことも大切であります。

提案をしてくださった避難訓練をコンパクトにすること、そして、イベントと合わせて避難訓練をすることは、避難訓練を何度も繰り返してもらうためにとても大切なことだと思います。大崎さんの提案のように、子どもも大人も参加でき、災害への備えを考えてもらうよい機会になるからでございます。

彦根市では、防災の専門家から地元の皆さんに避難の仕方などを学んでもらうための出前講座を実施しています。また、住民の皆さんのリーダーを対象にした研修会なども実施しており、地域独自でコンパクトな避難訓練ができるよう働きかけています。ほかにも、「広報ひこね」、ホームページなどのお知らせを通じて、できるだけ気軽に何度も避難訓練を繰り返していただけるように呼びかけていきたいと思っています。

なお、イベントと合わせて避難訓練をすることについてですが、文化祭等と併せて防災訓練をされている地域もあります。

また、毎年開催している彦根市防災訓練では、ヘリコプターによる救出訓練や消防車による放水訓練等が見学できるほか、起震車といって地震を体験できる車を設置するなど、また、テントの中での火災時煙体験、降雨体験車による大雨体験、高所作業車による高所体験、災害時に使用する特殊車両の展示、また、給水車による飲料水給水体験、水消火器による初期消火体験など、実施をしているところであります。その他、气象台をはじめとした組織、企業によるブースや市が備蓄しているワカメ御飯、梅がゆ、飲料水の配布を行っており、どなたでも参加できます。今年の訓練は先月に終了いたしましたが、来年も実施いたしますので、大崎さんもぜひ参加していただきたいと思っています。

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 大崎さん。

〔20番（大崎花奈さん）登壇〕

○20番（大崎花奈さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（後藤響太朗さん） 21番山口愛加さん。山口さん。

〔21番（山口愛加さん）登壇〕

○21番（山口愛加さん） 「彦根駅の利用客を増やしてほしい」

私は、彦根駅を人気のある駅にするために三つのことを提案します。

一つ目は、駅をきれいにすることです。理由は、みんな古い駅よりきれいな駅の方が入りやすいし、駅に行きたいと思うからです。

二つ目は、彦根に市民プールをつくることです。理由は、市民プールをつくることでプールに行きたい人も増え、学校がそのプールを使うと学校の先生たちの働き方改革にもなると思ったからです。

三つ目は、子どもや家族連れをターゲットにすることです。理由は、子どもの利用が増えると、子ども1人では電車に乗れないので、親が一緒だと利用客も倍ぐらいに増えると思ったからです。

さらに、子どもや家族を増やすためには、ファミリーレストランや子どもが遊ぶことができる場所をつくるといいと思います。

○第3グループ議長（後藤響太朗さん） 都市政策部長。

○都市政策部長（古川雅之さん） 山口愛加さんからの「彦根駅の利用客を増やしてほしい」についてお答えします。

山口さんの三つの提案は、彦根駅を人気のある駅にするためのとてもすばらしい提案だと思います。

まず、一つ目の駅をきれいにするとのご提案については、本市もそのとおりと考えており、駅を利用する皆さんが気持ちよく利用できるように、ＪＲや彦根市など関係者が協力して掃除を行っております。建物自体の建替えなどは今のところ予定はありませんが、今後も引き続き、きれいな駅を保つことができるように努力していきます。

二つ目の市民プールをつくる提案については、大変難しいと思いますが、プールに代わるものとして、彦根駅を利用して多くの人に訪れてもらえるよう、県による平和堂ＨＡＴＯスタジアムを含む彦根総合スポーツ公園の整備や市による金亀公園の多目的競技場の人工芝化など、取組を進めています。

三つ目の子どもや家族連れをターゲットにすることについては、先月10月19日に近江鉄道がガチャフェスというイベントを開催し、彦根駅をはじめとした沿線の駅で様々な催しが行われ、多くの家族連れでにぎわいました。彦根市は、このような電車を利用したくなるような取組について、彦根市民だけでなく、広くお知らせをしていきたいと考えています。

さらに、彦根市では現在、彦根城の世界遺産登録に向けた取組を県や市が一丸となって進めています。世界遺産に登録されますと、日本国内だけでなく世界中から観光客が来ら

れます。こうしたことにより彦根駅の利用者が増えますと、山口さんが提案されているファミリーレストランや子どもの遊び場所ができることも期待できると思います。

山口さんも家族や友達などとこれまで以上に彦根駅を利用していただければありがたいと思います。

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 山口さん。

〔21番（山口愛加さん）登壇〕

○21番（山口愛加さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 22番野瀬悠成さん。野瀬さん。

〔22番（野瀬悠成さん）登壇〕

○22番（野瀬悠成さん） 「学習者用端末をより高性能に」

僕は、学習者用端末を今よりも高性能にすることを提案します。

学習者用端末が導入されて、いろいろと便利になりました。しかし、現在使用している端末は、立ち上げるのに時間がかかったり、学習の途中で止まったりすることがあります。近隣の長浜市ではiPadが導入されていて、スムーズに学習に利用できていると聞いています。

また、今使っている学習者用端末は、家で使っているiPadより重くて持ち運ぶのに不便です。より軽い端末にすると、低学年でも使いやすく持ち運びやすくなります。確かに今の学習者用端末にはキーボード機能がついていて、タイピング練習ができます。けれども、iPadでもキーボード機能を入れることでタイピング練習ができるようになります。

こうしたことから、学習者用端末を今より高性能で使いやすい端末にし、よりよい学習環境にすることを提案します。

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 教育長。

○教育長（西嶋良年さん） 野瀬悠成さんからの「学習者用端末をより高性能に」のご質問にお答えします。

質問内容から、今よりもっといろいろな学習場面で端末を使えるように、みんなが使いやすい学習者用端末にしてほしいと考えておられることがとてもよく分かりました。

現在、彦根市内の全ての小・中学生が使用している学習者用端末は、令和2年度に住民の皆さんからの税金を使って整備をしたものです。今、皆さんの使っている端末よりも素早く起動し、薄くて軽いものもありますが、限られた予算の中で、大人になったときに今一番使われているWindowsに小さいうちから慣れてもらえるように、現在の端末を選んでいきます。

皆さんが毎日の学習で端末を使用していると、だんだんと起動に時間がかかったり、うまく動かなかったりすることが増えてきます。そこで、学習者用端末は5年で新しいものに交換するという計画があり、令和7年度には皆さんが使っている学習者用端末は新しい

端末に変わる予定です。使いやすく壊れにくく、いろいろな学習に活用できる、そんな学習者用端末を毎日身近なものとして使ってもらえるように、今、学校の先生や教育委員会などでいろいろなお店の人たちと意見を練り合い、どの学習者用端末を選ぶか検討しています。まだどんな端末になるか分かりませんが、今よりも軽くて高性能な端末になると思います。楽しみにしてください。

また、アクティブラーニング教室に行けば、学習者用端末よりも高性能の端末が設置されています。動画編集やプログラミングなど、ぜひ活用してみてください。

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 野瀬さん。

〔22番（野瀬悠成さん）登壇〕

○22番（野瀬悠成さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 23番桐畑琉楓さん。桐畑さん。

〔23番（桐畑琉楓さん）登壇〕

○23番（桐畑琉楓さん） 「休日部活動の地域移行について」

私は、中学校の部活動の地域移行について質問します。

私は、家族から中学校の部活動がなくなったり、活動する場所が変わると聞きました。私が中学校に入ったらバスケットボールがしたいと思っていますが、地域移行することによって今ある部活がなくなってしまうのか心配になりました。また、活動する場所が今までよりも遠くなってしまうと、自分一人で活動の場所まで行けるか不安です。

しかし、地域移行をすることで自分の中学校以外のいろんな人と交流することができるよさがあります。いろいろな人と練習すると試合もでき、より多くのことが学べます。H A T O スタジアムなど学校以外の場所で活動するのも楽しそうです。

現在、彦根市では休日部活動の地域移行についてどのような計画が進んでいるのでしょうか、お尋ねします。

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 教育長。

○教育長（西嶋良年さん） 桐畑琉楓さんからの「休日部活動の地域移行について」のご質問にお答えします。

質問内容から、中学校での休日部活動に関心を持ち、ほかの学校の友達やいろいろな人と交流できることを楽しみにしてくれていることを聞き、大変うれしく思います。また、中学校入学後には入りたい部活を考えてくれていることを知り、頼もしく思いますし、入学後、部活動での活躍を期待しています。

桐畑さんは質問の中で中学校部活動がなくなることの不安を挙げておられましたが、彦根市が取り組んでいる休日部活動の地域移行は、今すぐに中学校の部活動を取りやめるものではありませんので、安心してください。

彦根市では、平日はこれまで同様に部活動に取り組む一方で、休日の部活動については、地域移行に向けて取組を始めました。現在、市全体としては、部活動の地域移行について

の専門家や保護者、地域、学校や部活動の代表者が集まって、今後の中学生のスポーツ・文化芸術活動の体制整備を目指して相談や準備をしています。

また、既に稲枝中学校では、休日には全ての運動部活動で地域移行を進めており、地域の方や専門的な指導ができる方が指導に当たってくださっています。

一方、吹奏楽などの文化部活動については、まだ準備や体制が整っていないため、地域移行は進んでいません。

さらに、市内全ての中学校の部活動を対象として競技ごとの取組を進めており、昨年度からは剣道と水泳を開始し、今年度からはホッケーの地域移行に取り組んでいるところです。

今後も、休日部活動の地域移行については、皆さんのスポーツ・文化芸術活動がより豊かなものになるように、知恵と力を合わせて体制を整えていきたいと考えています。みんなで魅力ある地域スポーツ・文化芸術活動をつくっていききたいと思います。

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 桐畑さん。

〔23番（桐畑琉楓さん）登壇〕

○23番（桐畑琉楓さん） ありがとうございました。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 24番田辺蓮美さん。田辺さん。

〔24番（田辺蓮美さん）登壇〕

○24番（田辺蓮美さん） 「図書館の利用を増やすことについて」

私は、図書館の利用を増やすことについて提案します。

今は子どもから大人までゲームなどのメディアばかりを使っていて、本を読むことが少なくなり、目を悪くしたり、高学年になっても絵本ばかりを借りたりしている人がいます。このままいくと、本を読む機会が少なくなり、知識を得る機会が少なくなってしまう。

それを防ぐために私は図書館の利用を増やしたいと考えています。図書館では、新しい本を入れたとき、その本のポスターなどを作り、多くの人に知ってもらうようにしたり、新しい本を入れたり、もっと図書館に興味を持ってもらいたいと思います。多くの人に図書館に興味を持ってもらうといろいろな人が本を借りに来るので、本を読まなくなることが防げると思います。

また、返却できる場所を市内各所に設置して、借りた人がさっと返せるようにしたいと思います。

私は、図書館の利用を増やすことについて提案します。

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 教育部長。

○教育部長（小島久喜さん） 田辺蓮美さんからの図書館の利用を増やすことについての質問にお答えします。

図書館では毎年、約1万2,000冊の新しい本を購入しています。これらの新しく入った本については、本のリストや背表紙を並べた写真を館内に展示して皆さんにお知らせをし

ています。

また、毎月、図書館だよりというお知らせを発行し、館内で配っているほか、彦根市のホームページにも掲載して、いつでも見ることができるようにしています。図書館だよりは、大人向けの「鳩の声」と子ども向けの「こどもチャンネル」の2種類を用意していて、新しく入った本や図書館の専門家である図書館司書からのお薦め本、図書館からのお知らせなどを載せています。

これらによって、図書館の利用者がどんな新しい本があるのかを分かりやすく、また手にとってもらいやすくしていますので、ぜひ田辺さんにもご覧いただきたいと思います。

次に、返却場所を増やすことについては、現在、返却場所は、図書館と移動図書館たちばな号のほか、開館時間中に限られますが、稲枝地区公民館となっています。

さらに、令和10年度には南彦根駅の西側に（仮称）図書館中部館の開館を予定しており、開館すれば本の返却もできますので、利用しやすくなると思います。

本を読むことは、多くのよい知識を得られ、様々なことへの興味や関心を深めることができますので、田辺さんや皆さんもぜひ続けていただきたいと思います。

今後とも市民の皆さんがより図書館を利用しやすくなるよう様々な工夫を重ねてまいりますので、よろしくお願いいたします。

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 田辺さん。

〔24番（田辺蓮美さん）登壇〕

○24番（田辺蓮美さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（後藤響太郎さん） 以上で全ての質問を終了します。

これで第15回彦根市子ども議会を閉会します。

皆さん、お疲れさまでした。

午前11時53分閉会

会議録署名議員

第1グループ議長	コルトン 恵里
第2グループ議長	田 辺 蓮 美
第3グループ議長	後 藤 響太郎
議 員	吉 田 玖 音
議 員	藤 岡 和 恩
議 員	喜 多 玲音菜
議 員	大 崎 花 奈